

第2章 北海道の森林について

～北海道の森林について知ってみよう、考えてみよう～



春

冬の間を葉を落としていた広葉樹が一斉に芽吹き、山は新緑に包まれます。

深い緑に覆われ、
森林の全ての生き物の
成長を育みます。



夏

紅葉の時期には、落葉樹の黄色や赤色と、
常緑樹の緑色が織りなす美しい風景をつくりあげ、
多くの人々を魅了します。



秋

雪の白色とトドマツや
エゾマツの緑色が
絶妙なコントラストを
つくりあげ、
北海道特有の景色が
見られます。



冬

北海道の森林について

北 海道には広大な森林が広がっており、私たちは豊かな自然に囲まれながら生活をしています。

こうした北海道の森林は、本州の森林とは異なる特徴を持っており、また、森林と一言で言ってもいろいろな種類の樹木で構成され、その形態もさまざまです。

その特徴的な姿は四季の移り変わりを見事に表現し、私たちに感動や安らぎを与えてくれます。こうした森林がつくる美しい景観は、北海道の観光資源として重要な役割を果たしており、毎年多くの観光客を魅了しています。

北海道の森林を知って、考えてみましょう。そのことで、森林がより身近に感じられるようになります。



身近にある豊かな自然を感じてみよう！

●北海道の森林面積はどれぐらい？

森林面積は約 550 万ヘクタールで、北海道の土地面積の約 7 割を占めています。この面積は、全国の森林面積の約 4 分の 1 に相当し、道民 1 人あたりでは約 1 ヘクタールで全国平均の約 5 倍となっています。

そのうち、天然林が約 7 割、人工林が約 3 割を占め、天然林が高い比率となっています。

また、他の都府県に比べて、国や道が管理する森林面積の割合が高いことが特徴です。

●木の種類にはどんな特徴があるのでしょうか？

北海道の気候は温帯から亜寒帯への移行帯に属しており、そこで育まれる森林は、北海道特有の多様な樹種からなる森林をつくりあげます。森林にはたくさんの樹木が見られますが、葉の形状等から「広葉樹」と「針葉樹」の 2 つに大きく分けられます。

広葉樹は葉が扁平で広いのが特徴で、ドングリになる「ミズナラ」や、公園などで見られる白い肌が特徴の「シラカンバ」、道内では道南地域に多く生育する「ブナ」などが主なものです。





針葉樹は葉が針のように細いのが特徴で、冬でも葉が落ちない常緑の「トドマツ」や「エゾマツ」、秋に葉が黄色になる落葉の「カラマツ」などが見られます。また、道南地域では本州人工林の主要樹種である「スギ」が見られます。

●天然林・人工林とは何でしょうか？

主に自然の力でできた天然林と、人の手によって造成された人工林は、北海道の自然条件や地域のニーズによって守り、育てられ、さまざまな姿を持っています。

天然林は、亜寒帯性の針葉樹であるトドマツやエゾマツと、冷温帯性広葉樹であるミズナラやシナノキなどが混じり合い、変化に富んだ森林が形成されるのが特徴です。これを「針広混交林」といい、針葉樹と広葉樹の共存が北海道における天然林の特徴となっています。

人工林は、造成の確実性などから、トドマツやカラマツなどの針葉樹が大部分を占めています。広葉樹についても造成されていますが、その面積は針葉樹に比べてかなり少なくなっています。



MEMO

